

会 議 録

会議の名称	第 1 回さど未来創造・戦略推進会議
開催日時	令和 3 年 11 月 21 日（日）13:30～15:30
場所	佐渡中央文化会館（アミューズメント佐渡）
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 座長の選任 3. さど未来創造・戦略推進本部設置及び推進会議開催要綱について 4. 第 1 期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略について 5. 佐渡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて 6. 第 2 期総合戦略の策定について 7. 佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例（案）について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・学識有識者ほか 17 名 ・(事務局) 企画課 課長 猪股 雄司 主任 松本亜沙美 主事 長島 崇史
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・さど未来創造・戦略推進本部設置要綱 ・さど未来創造・戦略推進会議開催要綱 ・第 1 期総合戦略の概要 ・第 1 期総合戦略の評価検証 ・参考資料：目標指標令和 2 年度実績 ・人口ビジョン現行計画の概要 ・人口ビジョン見直し（案） ・国の第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要」 ・総合戦略策定スケジュール（案） ・第 2 期総合戦略素案 ・第 2 期総合戦略取組及び KPI 一覧 ・佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例（案）について
傍聴人の数	7 人（報道 1 名含む）
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
松本主任	<p>定刻になりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>このたびは、さど未来創造・戦略推進会議の趣旨をご理解、ご協力いただくとともに、お忙しいなかご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>進行につきましては、さど未来創造・戦略推進会議開催要綱において座長が進行することになっておりますが、座長が選任されるまでの間、事務局で務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、次第に従いまして、1. あいさつということで、企画課長よりあいさつを申し上げます。</p>
猪股課長	<p>本日は、お忙しいなか、「第1回さど未来創造・戦略推進会議」にご参加いただきありがとうございます。</p> <p>皆さまにおかれましては、日頃より本市の地方創生の取り組みに多大なるご支援、ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。</p> <p>さて、本日の推進会議では、令和4年度からの5年間における第2期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたり、広く有識者、市民の皆さまからの意見、助言を求めため開催するものであります。</p> <p>本市においては、平成27年に第1期となる総合戦略を策定し、令和元年度をもって計画期間が満了しており、現在、令和6年度まで延長しております。</p> <p>第2期総合戦略の策定に当たっては、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策5原則、4つの基本目標などを踏まえるとともに、人口ビジョンの分析に基づいた政策を展開することとなります。</p> <p>また、人口減少克服・地方創生を目的として、本市の特色や地域資源を最大限に活かした地方創生の取組を積極的・戦略的に進めるため、最上位計画である「佐渡市総合計画」との整合性を図り、一体的な取組となるよう策定する必要があります。</p> <p>第2期では第1期の評価検証等も踏まえ、地域の特性に応じた検討プロセスを経て策定を進めることが何より重要となって参ります。最上位計画である、「佐渡市総合計画」の策定と併せ、みなさまからご意見、お力添えいただきと思っております。本日、短い時間ではありますが、活発な意見交換の場となるよう、よろしくお願い申し上げます。</p>

松本主任	<p>ありがとうございました。それでは、次第に従いまして進めていきたいと思いをします。</p> <p>座長の選任を行います。</p> <p>座長の選任についてですが、さど未来創造・戦略推進会議開催要綱第4条の規定により、参加者の互選により選任することとなっております。</p> <p>それでは、座長に立候補される方、あるいは推薦される方はいらっしゃいますか。</p> <p>立候補、推薦がないようですので、事務局の案といたしましては、J様へお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。異議がないようですので、J様へお願いしたいと思いをします。</p> <p>それでは、J様、よろしくお願いいいたします。</p>
座長	<p>座長に選任されましたJです。よろしくお願います。</p> <p>それでは、次第3から7までの協議に入ります。</p> <p>次第3「さど未来創造・戦略推進本部設置及び推進会議要綱」について、事務局から説明をお願いします。</p>
松本主任	<p>説明に入る前に資料の確認をさせていただきます。事前に配布しております資料No.11を除く資料No.1～No.12、本日配布しました資料No.10追加及び資料No.11、意見書2枚となります。よろしいでしょうか。</p> <p>また本日、会議で使用します資料は事前に送付させていただいております。議題も多く、時間も限られているため、各議題の説明は主要な部分のみとさせていただきますので、よろしくお願います。</p> <p>資料No.1、No.2、No.3説明</p>
座長	<p>ただいまの説明について、ご意見はありますでしょうか。</p> <p>ないようですので、次の次第4に進みます。</p> <p>事務局より、次第4「第1期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について説明をお願いします。</p>
松本主任	<p>資料No.4、資料No.5説明</p>
座長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、資料等は事前にお配りしております。事務局から掻い摘んで説明がありましたが、ご意見・ご質問がある方は挙手にてお願いいいたします。</p>
A氏	<p>この会議のなかでKPIの見直しも諮っていくことでよいでしょうか。</p>
松本主任	<p>今後、第二期を策定し令和4年度が終わりましたら、令和5年度に振り返りを行い、KPIの在り方というのを見直していきたいと思っております。</p>
A氏	<p>今までのKPIと手段が一致しているかどうか検証もここでやることになるので</p>

	しょうか。
松本主任	そのとおりです。
B 氏	目標を達成していくうえで、佐渡市のなかでの様々な施策の目標になると思います。例えば、トキ米のことであれば協議会というステークホルダーも非常に重要になってくると思います。どのような方たちが目標を共有されていて、誰がステークホルダーで、どんな推進体制でそれぞれの目標に取り組んでいるのかが少し見えづらいと思いました。例えばトキ米のことは協議会の方に KPI が浸透しているのかなというのが疑問に思いましたので、そのあたりの体制や状況について教えていただけたらと思います。
松本主任	各課において協議会や個別計画をもっているのですが、そのなかでこの総合戦略を作り上げており、共有しているものだと思っております。しかし、皆の共通認識で K P I に向けて動いているかということ、現状 50%以上未達成の部分を見ると共有されていないと思っております。
B 氏	そのあたりは 1 つの課題かと思っております。どのような体制で、どのようにステークホルダーを巻き込んでいくのかが課題であると思われました。例えば、漁業の生産資源で漁獲量が減っている数値が出ているが、その理由としては漁業者が減少していることがあげられるが、そもそも水産資源が非常に減少している。漁業法改正で生産資源管理もこれからきっちりやっていかなければならない時代に入っていくなかで、自然資源のポテンシャルのようなものもしっかり踏まえた戦略で、評価になっていく事が望ましいのかなと思われました。水産と言うのは一つの例なのですが、他にも根拠となるデータの蓄積、分析も必要なのかなとも思われました。
松本主任	今回、本部会議で市長から同じ意見をいただき、各課自分達で取り組んでいる事業に紐づいている K P I については効果分析し、第二期に反映するよう指示を出しております。 しかし、どこまで分析できているかはこちらを見ていただいても結果論でしかないような書きぶりではあります。これから十分に分析するように進めていきたいと第二期では思っております。
座長	ステークホルダーに紐づいている団体、そのような方々がどんな取組をしているかが必要になってくると思います。それについても事務局の方から各課にお伝えしていただきたいです。 その他、個別のことでも構いませんので意見をよろしく願います。

C 氏	<p>今のステークホルダー一件ですが、ステークホルダー図というものを作っていったほうが良いと思います。4つの目標それぞれにステークホルダー図を1枚で構わないので作っていただき、図のなかに役割分担を明記すると同時にどこまで情報共有し、どのような手段でするのかをA4用紙2枚くらいにまとめていただけたら良いのではないかと思います。それさえ出来ていれば次回、情報伝達がしっかりされいると思います。</p> <p>KPIの話ですが、私が関わっているのが企業誘致、雇用促進になり基本目標2あるいは観光にも関連すると基本目標1になります。</p> <p>こちらに関して、私が本当に知りたい情報はKPIとしてなく、それは何かと申しますと島の中に入って来るお金と、島の中から出ていくお金の総量、差額が分からないため知りたいと思っています。生活環境を整える、持続可能な地域をつくるというところには関わりが薄いかもしれませんが、この島において仕事を作り、そして職場を作り、働く人を求め、UIターンが大事になってくるのですが、最も大事とって良いかわかりませんが、島の中で貨幣の総量が減っているのを実感しており、結局、島の中で振興券を配るなどの施策がサービスとサービス、物と物、物とサービスを交換するためのツールである貨幣が少ないことでうまく回っていない状況だと思っています。私たちが島の内、外からどれくらいお金を移動させなければならないのか、それはいろんな分野がありますが、私の会社のようにITもあれば農業もあり、それ以外にもいろんなものがあります。その目標がわからないとどうやっていつ、どれくらいで達成できるかわからないと思います。現実的に不可能であれば無理ということで構わないのですが、もしそういったことが可能なのか、検証していただけるのであれば将来有効な戦略をたてられるのではないかと思います。それもわかればKPIに入れたらよいかと思います。</p>
座長	<p>ステークホルダーによる情報共有は必要だと思います。状況把握についても必要だと思います。また、島全体のお金の出入りの把握、島外から入って来るお金をどれくらい稼いだ方が良いかというところまでのKPIがそれぞれ関係する産業で設定できれば良いと思います。</p>
松本主任	<p>ステークホルダー図については、ぜひやらせていただきたいと思います。お金の循環については、RESASや産業連関表などを使い、どのようにできるか検討していきたいと思っています。</p>
D 氏	<p>C氏の発言と私も同じ考えです。お答えのなかでRESASや産業連関表のことがありました。</p> <p>先進的な地方創生に取り組んでいる地方自治体のなかでは、RESASを効果的に利用していると聞いています。島の中から出ていくお金、島の外から入ってくるお金も分析可能かと思います。</p>

	積極的にご活用していただければと思います。
座長	他にご意見はございませんでしょうか。 ないようですので、次に参ります。 次第5「佐渡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」について事務局から説明をお願いします。
松本主任	資料No.6、No.7 説明
座長	ありがとうございました。 ただいま、事務局から説明がありました資料No.6 人口ビジョンの計画内容、人見直し（案）でございます。 27年に作った内容と乖離もでてきております。その点も踏まえて現在、見直しをしているところであります。
E氏	この人口のお話しですが、人口に関し、子育ても含めて佐渡市のなかで会議などは行われているのでしょうか。この多くのなかでやるのではなく、それだけの想いをもち、これからしっかりとこれからどのようにしていくのか、今後そのような会議の場を設ける予定があるのでしょうか。それとも既存でこの問題に関する会議があるのでしょうか。
松本主任	人口ビジョンに関してはこの推進会議のなかで行っていく予定である。
E氏	子育て支援という点では、この3つのなかでは納まりきれないほど、色々できる事があるのではないかと思います。その理由としては、子育ての施策は子ども若者課も行っているが、そうではなく、人口という意味で考えたときに1つだけで十分できる会議ではないのでしょうか。これだけ多くの議題のなかでここだけに時間を割くということにはいかないと思います。これだけ分科会にするなど、しっかりやっていないとこの現状をどれだけの人が知っているのかということも含め、考えていかないといけないのではないのでしょうか。
松本主任	別の会議を持てるのかについて、検討させていただければと思います。
B氏	総務省の外郭団体の地域活性化センターの方と意見交換を行ったのですが、小規模人口推計というのをやられており、今度、佐渡でプロジェクトをできないかというお話をしています。佐渡市全体で人口を見るとどうしてもぼやけてしまうのですが、例えば内海府エリアや外海府エリアなど小分けにして人口推計を出してシナリオをシミュレーションできるものです。内海府エリアに2人30代の人が入ると、10年後にはこれだけ人口が増える可能性があるかなど、そういったシナリオを描くと内海府の人達も自分達の地域に外の人達が何人か入ってくることで10年後には変化が起きるのか実感をもって数値をみれるかと思

	います。後日、資料を共有させていただきます。
松本主任	ありがとうございました。参考にさせていただきます。
座長	他にございませんでしょうか。 人口ビジョンについては、第1期の検証を踏まえて乖離も出てきています。第1次の際は出生率も現実的な数値2.08を目標に設定しましたが、今となつては目標から大きく離れてしまっています。
C氏	教えていただきたいことがあります。2060年の目標3万2千人という数値をいただいているのですが、減少率を下げることによって、できるだけ3万人を切らないようにしましょう、3万人維持しましょうという計画かと思っております。この3万2千人という目標数値を出した根拠が知りたいです。積み上げていくと3万2千人になるのか、それとも重要と思っておりますが、現在、人口5万人が3万人になったときに、しっかりとした教育・医療等を受けられる、豊かに生活していくための基本を維持できるのかどうかということが知りたいです。 社会インフラで考えた場合、3万2千人をどうしても維持しなければならないというラインを死守するために対策をどこに計算配分していこうということになります。もし、これが2万5千人でも問題ないということなのか、実は4万人に減ると社会インフラの一部が維持できなくなるのかということを知りたいので、その点に関して教えていただくことは可能でしょうか。
猪股課長	人口の最低数は一般論になりますが、佐渡市程度の規模の自治体であると、私どものデットラインは3万人を死守したいと考えております。3万人を切った場合にインフラであるとか、一番簡単にわかるのが水道設備です。今現在80程度の水源があり、大きく言えば佐渡周辺に昔でいう簡易水道が各集落に1個水源があり、そういったインフラを検討したなかで3万人いないと市として維持が難しいのではないかとこのところ、今回人口ビジョン将来像を策定するにあたり3万人を死守するためにはどのくらいの取り組みが必要かというところを念頭におかせていただき策定をさせていただいております。 やれることをやったら3万2千人ということではなく、逆に3万2千人を確保するためにはどういった取り組みが必要かとう数値をまず出したいと思っております。社会減をくい止めるためには移住定住、企業誘致の施策をして毎年何人の社会増を増やしていくのか、生産年齢がどれくらい転入すれば人口が増える兆しがでるか、そういったところを想定しながら今回のビジョンの推計をたてさせていただきました。
A氏	今、合計特殊出生率などが低下している原因はここで説明していきますか。

猪股課長	<p>合計特殊出生率の考え方ですが、佐渡市のように人口が少なく、子どもを産める女性の年齢層も含めると分母が小さい地域はその年代の人口が変わると大きく変動します。</p> <p>社人研の推定によりますと、出生率が変わってもそれほど人口に影響を与えないことがわかっています。私どもの分析したなかでは、出生率を上げるため、まずは子どもを産みやすい環境づくりなどを含めたなかで全体的な検討があるのではないかと考えています。出生率の率自体にはあまり重きを置いていません。</p>
F氏	<p>今回、初めてこの会に参加させていただくのですが、大学のKPI作っている立場なので事務局のご苦勞がよくわかります。大学の場合、KPIが達成できなかった場合は文部科学省からの補助金を減らされるというのがあるのですが、今回のKPIというのは、誰に対してのKPIなのでしょう。つまり先程、B氏がすごく良いことをおっしゃられていて、ステークホルダーのためのKPIであるべきだと議論があったかと思います。大学の場合、非常に不幸なことにステークホルダーのためのKPIと言いながら、実際は補助金を確保するためのKPIになってしまっており、なんのためのものなのかわからないという部分があります。今回このKPIであるとか、この後の議論に出てくる第二期総合戦略というものはどこに対してのものになると考えればよろしいのでしょうか。たとえばKPIが守れなかった場合に罰則や補助金が下がる等のものがあるものなのでしょうか。</p>
松本主任	<p>KPIを達成することで市民の生活が今よりも改善され、良くなるということを目指して行っています。</p> <p>未達成であったから罰則があるのかというと罰則などはありません。総合戦略を策定することで内閣府の地方創生関係の交付金が活用できるようになりますが、KPIが未達成だったからといって交付金の返還などはありません。</p>
F氏	<p>先程、B氏、C氏もおっしゃっていたように、よりきめ細やかな対応が必要になってくるのかなと思います。B氏の場合は、エリアごとに対策をたててはいかかかという意見をいただいたと思います。最近、皆さまコロナで人流やビッグデータというのがあると思うのですが、私どもの大学はエストニアに大学があり、eガバナンスに電子政府というのを推進している国があります。そちらと一緒にAI等での取り組みをやらせていただいております、例えば10万円を配るとし、電子請求をすると、どの人に本当にお金を配らなければならないのかというのをデータで見えやすくなります。一人ひとりきめ細やかな対応が今までできなかったことが、デジタル化することによって見えてるのかと思います。例えば、実際に個人情報保護の問題もあるかと思いますが、いくつか我々が外国で既にやっているいいなと思う取り組みがありますので佐渡で使ってい</p>

	<p>ただくかは別として情報提供として書かせていただこうかと思ひます。キーポイントとして個々の方に寄り添った施策をそろそろテクノロジー的にできる時期になってきつつあります。今まで、マスに訴えかける施策が多かったと思ひますが、これからはこの人がこういう理由で困ってるからということ佐渡では町内会も強いかと思ひますので、ソフト的な部分とテクノロジー的な部分とで人の繋がりやビッグデータがうまく融合した佐渡モデルのような一人ひとりに寄り添ったものができたらよいのかなとお話をうかがっていて感じました。</p>
座長	<p>私は第一期の作成時に関わったのですが、事務局の方から計画を作ることで交付金が自治体入ってくるという話があったかと思ひます。交付金を活用するため、各自治体が計画を作成したという経緯があるのですが、そのなかで佐渡市はわりと早めの段階で作成し、他の自治体ではコンサルに丸投げしてしまったということがありました。佐渡については、自分達で作ろうということで各課が議論しながら作った経緯がございます。5年後を見据えたうえで、KPIを設定しながら個別の計画を基にして作った経緯がございます。第二期に向かってAIを取り入れたなかで実際動きながらより緻密な客観性がある部分で皆さまとやっていければと思ひます。</p>
F氏	<p>人口を増やしたかったらIR等の誘致をすれば良いがそういう問題ではないと思ひます。そのなかで、佐渡の人が自身でどうやったら人口を増やせるのかを考えるのがものすごく重要だと思ひております。我々の方ではものすごく安易な考えもっているので学生が減ったら留学生入れようと思ひただけですが、佐渡にとって外国人を増やす事によって人口減をくい止めるという考えが果たして良いかどうかというのは、基本的には積極的にやらなくて良いだろうと思ひています。そういうのはやっぱり内部の方が考えるべきだと思ひたので今日この会議は素晴らしいなと思ひました。外国ではこんな例があります、個人的にこんなことを考えたのでどうですかなどご紹介させていただきたいと思ひます。自分自身がKPIを作成して感じる事は、KPIのためのKPIになってしまっていて数値化できる目標しか結局つくれていません。良いことやっていても数値化できないからKPIの表に載せられないこともたくさんあると思ひます。補助金のためにKPI作るのであれば、補助金用のKPIを作ってしまう方がいいと思ひます。本当のものは第二期総合戦略の方に書いて政策に愚直に反映させてしまえばいいかと思ひました。KPIに縛られるのもあまり良くないのではないかと思ひます。</p>
松本主任	<p>今回、第二期のKPIにつきましては、各課の方に令和4年度から今後5年間戦略的にやっていく部分の取り組みについて、新たにKPIを設定するものも良いのですが、総合計画、個別計画との整合性を取ってもらいたいと思ひています。</p>

F 氏	KPI の表で主な取り組みというのがあるのですが、大学ではその隣に誰が責任もつか書いてあり、具体的にステークホルダーに誰が関与するのかというのが書いてあります。そのステークホルダー方にこれをやるからとというリストが、先程、C 氏がおっしゃられた事とまったく同じなのですが、それをやると誰が手を抜いているのかわかるのですごく恐ろしいと思っています。もし、KPI をやるのであればそこまでしないと無理だと思います。何年後までにこれをしなくてはならない代わりに、こういうサポートするというのも具体的に示しておくのが良いと思います。
松本主任	ありがとうございます。
座長	責任の所在をハッキリとし、進捗管理をするということですね。
G 氏	1 年間に子どもの生まれ数がこのまま少なくなったとしても、このまま産婦人科は残るものなののでしょうか。例えば、150 人になったとしたら産婦人科がなくなり、そのことで急激なスピードで子どもの生まれる数が減っていくと思っています。
F 氏	それはかなり良いご指摘だと思います。 消防署をいくつ作れるや、スーパーが店舗を構えるなど全部の分岐点というのはもうあると思います。その数値から考え、3 万人くらいかなというのは良い希望感かと思っていますし、今の指摘は重要だと感じます。 1 つのサービスを維持できるかどうか重要となってきます。
猪股課長	産婦人科を維持するために必要な具体的な数字は持っていません。 基本的に 3 名の医師で 24 時間体制を回すためには、一定程度の出生数がないと維持するのが難しいと聞いております。 医療対策課も含め、医療機関のところは出生数とかなり結びついてくると思います。現状、佐渡総合病院しかなく、もし佐渡病院がなくなったら島外に出るしかなくなるため、危機感を持って出生数を増やすための対策を行う必要があると感じています。総合計画のなかでもそのような議論をしているところです。
座長	実際、第 1 期を作った時は年間 380 人でしたが、昨年 240 人で 6～7 年の間に 100 人以上減っています。これから 5 年～10 年経ってくると 150 人程度になるとも限らないと思います。
猪股課長	一説では、300 人を切ると危機感が増大すると以前言われておりましたが、これが一気に 250 人まで落ちているので、少しずつでもそういったところに政策していくように検討しています。 しかしながら、即効性のある対策がなかなかないのが現状です。

	<p>結婚を増やす施策、現在、既婚の方が2子目、3子目を増やすことも考えて対策を打っていかないと子どもの増には繋がらず教育・学校にも影響がでてきます。佐渡全体で小中高生が250人のような形になると当然学校の数も減ることになると思います。</p> <p>そういった事も含め、トータルの考え方をまとめながら政策を打っていく必要があると考えておりますので、皆さまご提案・ご意見があればぜひお聞かせ願いたと思っております。</p>
E氏	<p>佐渡市で子どもを産みたいと思える環境にするため、現状を分析した上で、何が民間と協力したらできるのか、何か民間が肩代わりできることがあるのかなど細かいところまでやっていかないといけないと思います。そういったことも含めてしっかり議論をしていかなければならないと思います。</p>
座長	<p>第1期を策定した時、保育料の無料化を行いました。その翌年には出生数が増えました。一旦、政策を打った時は一時的には増えるのですが、その後、継続していかない現状があります。中長期的なことを踏まえて効果的な政策が打てるように考えなければならぬと思います。</p>
B氏	<p>子どもを産むというだけでなく、養子縁組も一つの選択肢となるべきですが、佐渡では難しく、仲介やサポートが得づらい状況です。晩婚化で産みたくても産めない家庭もあると思うので、そういうサポートも必要なのかなと思います。人口ビジョンと直結するかわかりませんが、引きこもりで社会活動ができない方も多いと聞いています。そういった方々が復帰でき、活躍できるようになっていくことも、佐渡市の「ひと」や「しごと」について考える上で必要な観点だと思います。</p>
座長	<p>子どものことだけでこれだけの議論がなされるので、かなり大きな部分を占めているかと思います。社会増の部分は担当課で様々な政策があり、やはり子どもの部分となると、人が入って来て、結婚してという一連の社会のライフステージをつけていくことが重要なものになってくると思っています。</p> <p>それをまた検討していただければと思います。</p>
松本	<p>本日会議でいただいたご意見は、この後、本部会議において各課長を通じて報告させていただき、第2期の策定に反映するようお願いいたします。</p>
H氏	<p>人口減の抑制について明るい話題はないです。そのなかで2060年、先のことはまったく見通せないが、計画では3万人にするか2万にするかで、3万2千人するとそれなりの施策打ち出さなければならなくなり、整合性がとれるのでしょうか。</p> <p>全国の事例を参考にすると特別待遇で転入を誘う、お金なり住宅ローンを半額にするなど、そういうことを打ち出さないと難しいのではないかと思います。</p>

松本主任	各自治体で行われている成功事例なども参考にしながら、計画に反映できたらと思っています。
H氏	以前、結婚相談サポートなどの事業があったかと思いますがその事業について聞かせてください。
猪股課長	佐渡市合併後、結婚のイベントなども行っていました。 イベント系のいわゆる婚活パーティーのようなものを開催し、そのなかで何組かカップルになったということもありました。しかし、男性は一定程度参加していただけるのですが、女性の参加がないという課題がありました。島外から女性を呼びましたが、成果が上がらないという状況でした。どちらかと言うと半分は旅行、半分はイベントというような傾向でした。 また、島外のイベント会社に依頼していたという経緯もありいったん休止したところでした。 また、代わりに各地区に「世話人」という仕組みで、島内のどこに独身の男性がいて、どこに独身の女性がいて、世話人が仲介してお見合いさせてみるという取り組みもありましたが、特に女性の希望が少ないということとことでこちらも休止をしたという経緯があります。
座長	続いて、次第6「第2期総合戦略の策定」について、事務局から説明をお願いします。
松本主任	資料No.8、No.9、No.10、No.11 説明。
座長	次第6について、ご意見ご質問等がありましたらお願いします。
G氏	No.11の3枚目、離島留学の施策については掲載しないのでしょうか。
松本主任	掲載するかしないかについて各課と検討していきます。 他にも過不足があると思いますので皆様からご意見いただきたいと思います。
座長	スケジュールの件で、この会議の他に分科会などを行うという案もありましたが、年度内に1回、2回開けるようにスケジュールを組んでいただきたいと思っています。
松本主任	タイトなスケジュールで申し訳ないのですが、ご意見いただいた分科会など人口ビジョンだけの会を開催してはどうかとの意見をいただきましたので、最低1回を12月中にできるかどうか持ち帰って検討します。
座長	細かな意見も吸い上げているのが伝わればよいと思います。
B氏	松崎については、市民の動きだから管轄している部署が佐渡市になく、このような計画に載ってこないのでしょうか。だから佐渡市の施策として掲載してい

	<p>ないという理由もあるかと思えます。</p> <p>また、支所サービスセンターの取り組みもあるかと思えますがどうなっていますか。</p>
松本主任	<p>支所 SC の取り組みは基本的に本庁各課が統括し、吸い上げて報告がきています。</p>
座長	<p>鷺崎の離島留学については、集落から資金を集めて予算を工面して実施したという経緯があります。今、進んでいる状況を聞いた上で予算措置を行うのが良いと思えます。</p>
松本主任	<p>地域振興課が主体で各支所サービスセンターに地域おこし1名と相談員1名を配置しております。各地域で地域課題を聞きとり、状況を把握している状況だと聞いています。令和4年は課題を整理する年、令和5年から施策に取り組むことになるかと思えます。</p> <p>令和5年ごろからおそらく地域課題をお示しできるかと思えます。</p>
E 氏	<p>放課後子ども教室についてお教えいただきたいと思えます。</p> <p>やっているところ、やっていないところがあると聞いています。やっているところとやっていないところで差が出てきてしまっている現状が子育て世代でも出てきてしまっているの、こちらもどうなっているか知りたいです。</p>
松本主任	<p>持ち帰って担当課に確認してみたいと思えます。</p>
猪股課長	<p>ご意見をいただいたように過不足があると思えます。ここに載っていないだけでも総合戦略の取り組みとして必要だというご意見があるかと思えますので、市として必要だろうというご意見をいただきたいと思えます。</p>
A 氏	<p>基本的に佐渡市は自主財源があまりない自治体です。事業を展開していく場合に交付金が対象となっている、国の補助金の対象となっているという目線で行うのですが、そうやって事業化していく限りは全国一列レースから外れないからです。</p> <p>小さい成功事例としては、鷺崎や松崎のように、小さい集落のなかでどこにも頼らずやれている時の方が実は小さい成功事例だったりします。これを役所目線で行くと側面支援しかしていなく、事業化していないのが多かったです。</p> <p>この部分に注目すると、先程の人口減少であったり、産業の振興だったりというところにヒントがあるような気がします。もしかしたら側面支援をもっと手厚くしてオリジナルの展開ができるようになったら良いかと思いました。</p>

C 氏	<p>企業誘致についてはかなり成果が出ていると考えています。地域振興課、移住交流推進課が積極的にやってくださって企業もかなり増えてきているところです。例えば、誘致する企業を何でも良いというわけではなく、子育て支援に協力的な企業を重点的に誘致する、保育園のお迎えに行きやすい企業に加点するなど、数字には表しにくく KPI に現れにくい点かもしれませんが、この島が目指しているのは最終的に人口増加だと思っています。そこを維持するため、それぞれの課が責任をもつということで主管課という形になっています。お金を掛けずもっと情報共有を課でできるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、当社のスタッフ 40 名くらい従業員おり、20 名ほどが女性です。お子さんがいると 16 時に帰りたい、それに対応できないと産後に戻って来てくれないです。なので、そもそもそこに親和的な企業さん呼び込む施策を考えてはどうでしょうか。</p> <p>I 氏がやられていた「佐渡部」の卒業生の男性が女性を連れて移住してくれています。そういった人口動態に関してプラスになるようなものが良いと思います。</p> <p>そういった小さな例を参考に誘致する際に紹介、フォローアップするなど KPI とは違う結びつきが必要なかなと思います。</p> <p>もう少し、横断的に情報共有する場があっても良いかと思っています。</p>
I 氏	<p>サポートセンターで扱っていることは数値に表しにくい様々な細かことがあります。最近、離島留学へのお問合せがかなり増えています。特に松崎小中学校については、地域の団体がはっきりしており、情報公開もしっかりしていると思います。鷺崎の方は、ホームページなどは早かったが中の情報が少なく、コンテンツが充実しておらず、どうしても今の状況がわかる松崎の方を紹介しています。管轄がどこかわからないのが離島留学ですが、移住交流推進課の補助を使った数値が目標になり、わかりやすいと思います。実際どう頑張っても増えているのかというのわかりやすい事なのかなと思います。移住交流推進課がどうかわかりませんが、この新しい人の流れの基本目標 2 のところには入りやすいのかなと思います。ただ現状、学校が合わないで島内で移動される方もいらっしゃいます。移住とは関係のない島内移動も増えているのでその点が整理しづらいところです。</p> <p>島内の人にも取り組みを知ってもらおう意味で掲載することの意味があると感じています。</p>
B 氏	<p>すべての事業がここに掲載されるわけではないと思います。どのように取捨選択するのでしょうか。</p>
松本主任	<p>総合戦略には、人口減少対策、地方創生に資するものとなります。</p>

B 氏	認証米の取り組みは必ずしも人口減少対策に直結するわけではないと思うのですが、その点はどのようなのでしょうか。
猪股課長	先程ご説明したとおり、4つの目標がございます。このなかで1から4までのなかで、例えば認証米は1の稼ぐ地域の実現に入ってきます。いわゆる、結婚・出産・子育てというのは3番に入ってきます。そのなかで地域の産業であったり、地域づくりであったり、今後5年間取り組むべきものを盛り込んでいくことが必要かと思っております。
松本主任	主な取り組み内容がない状態ですが、12月3日以降、書き込まれた内容についてご意見をいただければと思います。
J 氏	地域資源の評価をどれくらいみていて、目標を出しているのでしょうか。例えば、牛の頭数、ECサイトの販売高など地域資源の評価をどう見て、だからこの目標を立てたのかがないとただの数値にしかならないと思います。地域資源をどう評価し、この後どう変わっていくのか、というのがないと良いと思いますので検討の方をよろしくお願いします。
D 氏	総合戦略と総合計画の関連性について説明がありました。今、取り組みの一覧にKPIがありましたが、これは総合計画の内容とほぼ一致するものなのか、関連性というのはどのようなのでしょうか。また、SDGsとの関連性はどのようなものなのでしょうか。例えば17項目が全て網羅されているのか、結果としてこの項目に当てはめるものがSDGsの17項目のどの項目なのか、どういう立て付けになっているのか教えていただきたいです。また、SDGsを佐渡で進めていくというようなことで先程、宣言がありました。SDGsの観点から例えばKPIに入れるとか、あるいは補助金の加点要素に入れるなど、そのようなお考えがあるのかどうか教えていただきたい。
松本主任	総合計画との整合性を取るように各課に依頼しているところです。 第1期では、このために作成されたKPIがあり、追いかけれないKPIなどもありました。 KPIは統一すること、総合計画、個別計画と紐づけることなどを各課に依頼しています。 資料No.10にSDGsの考えた方を取り入れ、該当分野を示す予定です。
座長	当然、総合計画についても、SDGsの考えを取り入れて作成しているところだと思います。 続いて、次第7について、事務局より説明をお願いいたします。
松本主任	資料No.12 説明。

座長	<p>あくまで、理念条例ということですが、市民にこういう取組をしていることを周知していく意味で必要なものということです。本日のシンポジウムの講師・先生の意見等を踏まえまして、こういった文言を入れた方が良いなどがあればご意見・ご質問をいただければと思います。</p> <p>それでは予定されていた協議議題は以上です。</p> <p>その他何かご意見等がありますでしょうか。</p> <p>それでは本日の推進会議を終了したいと思います。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>
----	--